

704 中央大学経済学会の一年

〔「法学新報」第32巻5（365）号 大正11年5月4日〕

○中央大学経済学会の一年 大正十年度に於ける経済学会の事業を終るに臨み一年の会務を回顧し記録に止めんとす（一）

第一回講演会—第一学期も終りに近づき青葉を渡る涼風颯爽として満都に漲り学徒の心をいやそそる七月三日、委員等十数日に亘る訪問其の他の準備整ひて茲に愈本学大講堂に於て開催せられる従来本会は会員の研究発表及討論のみに止まりしも今回始めて公開講演会を試みたるなり定刻に至るや折柄の炎暑を冒し来聴する者千余名に上り大講堂も忽ちにして立錫の余地なきに至る一時会長馬場先生は万雷の如き拍手に迎へられて登壇開会の趣旨に次ぎ日本に於ける経済学の発達並に将来に対する希望を述べられ次に農学士小平先生は「農村社会問題に就き」と題し得意の農政を論じて滔滔一時間余に亘り次に工学博士松浦先生は莞爾として登壇「離婚の話」てふ珍題の許に先生独特の諷刺と諧謔を交へて有益なる講話あり次て和服姿の青木先生は「平和条約の経済問題」の題下に得意の雄弁を振はれ音吐朗朗所論明確二千の聴衆恍として酔へるか如し大喝采裏に降壇するや十分間休憩せり其間に別室に於て講演者委員一同記念の撮影を為す卓上大花瓶の紫陽花はうなだれ烈日カーテンを透して暑気蒸すか如きも聴衆は静粛にして一人の退場者なく三時再会し

山田文学士は「道德生活に於ける新理想」と題し熱心にコーポレーションの精神を鼓吹して降壇すれは最後に破るるか如き喝采に迎へられて指田先生登壇せられ先づ經濟問題に興味を有せらるる諸君の前に講演するを喜ふとの冒頭に經濟上の時事問題より進んで政治問題に將た道德問題に縦横其論鋒を振つて聴者を狂喜せしむ或は義務觀念の旺盛なるに因りて權利は始めて意義ありと喝破し或は誠心努力主義を絶叫せられて壇(壇)を去らる時に四時半馬場先生は徐に起つて閉会の辞を述べられ拍手大喝采声裏に散会したるは五時過ぎなりき当日元田先生は「活眼を開きて」と題して御講演を賜はる予定の所突然公務上支障を生じて御出演なかりは返す返すも遺憾の極みなりき終りに各先生か何れも御多忙の所を貴重なる時間を割きてご出席ありしは吾等の感銘に堪へざる所茲に一言謝意を表す(二)懸賞研究論文の発表——十二月十一日嚮に会長馬場先生より与へられたる「吾か

に及ぶ会長には「真面目なる会合は参集者常に鮮し否な斯る研究的会合には烏合の衆よりも寧ろ貴き数人の研究的学生を望む今後とも真面目に努力あれ」との有り難き訓話あり一同感謝して散会したり(一委員誌)

国に於ける労働時間制を論す」に関する懸賞研究論文の発表は之か討論会を兼ね新館第三十一号室に於て開催せられたるか此日会長には早くより御臨席あり午前十時星出委員の開会の辞に次ぎ左の順序に依り討論に入る経一眞鍋數芳君、経二高木健助君、酒本茂作君、経三左近吉左衛門君、尚経三安藤直次郎君、原紫郎君、松居喜一郎君等控へたるも時間の余裕なきを以て遺憾ながら討論は之を以て終結とし会長の懇切なる批評並ひに審査あり左の二氏に夫夫賞品を授与せらる一等賞酒本茂作君(経二)、二等賞左近吉左衛門君(経三)斯くして午后一時散会委員一同は会長を囲みて午餐を共にす席上談偶参集者の少数なる